

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（3年次）

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 4. 6
No.1 文責 荒木秀

これまでの研究について①

新しく来られた先生もいらっしゃるので、昨年度までの研究を簡単にふり返っておきたい
と思います。紙面の一番上にも書いてある通り「主体的、対話的で深い学びの実現を目指して」
を主題に研究を進めてきました。

では、主題に迫る児童の姿はどんな姿でしょうか？主体的な学びをする児童の姿って？対
話的な学びをする児童の姿って？本校では、次のように考えます。

「主体的な学び」…課題を自分事としてとらえ、見通しをもって意欲的に解決に向かおうとする。

「対話的な学び」…友だちや先生、教材、そして自分自身と対話を重ね、新たな見方や考え方に気付いたり、自分の考えに自信をもったりする。

伊藤先生は、主体的な学びを「**かっぱえびせん**」、工藤先生は、対話的な学びを「**芋煮**」と食べ物に例えてくれました。面白いですね。なるほど、的を射ています。

このような学びを子どもたちがするために、私達教師がどのような手立てを取っていくのか、それが研究の視点です。詳細は、令和4年度学校経営計画P41をご覧ください。

視点1 「主体的な学びをつくるための工夫」

視点2 「対話的な学びをつくるための工夫」

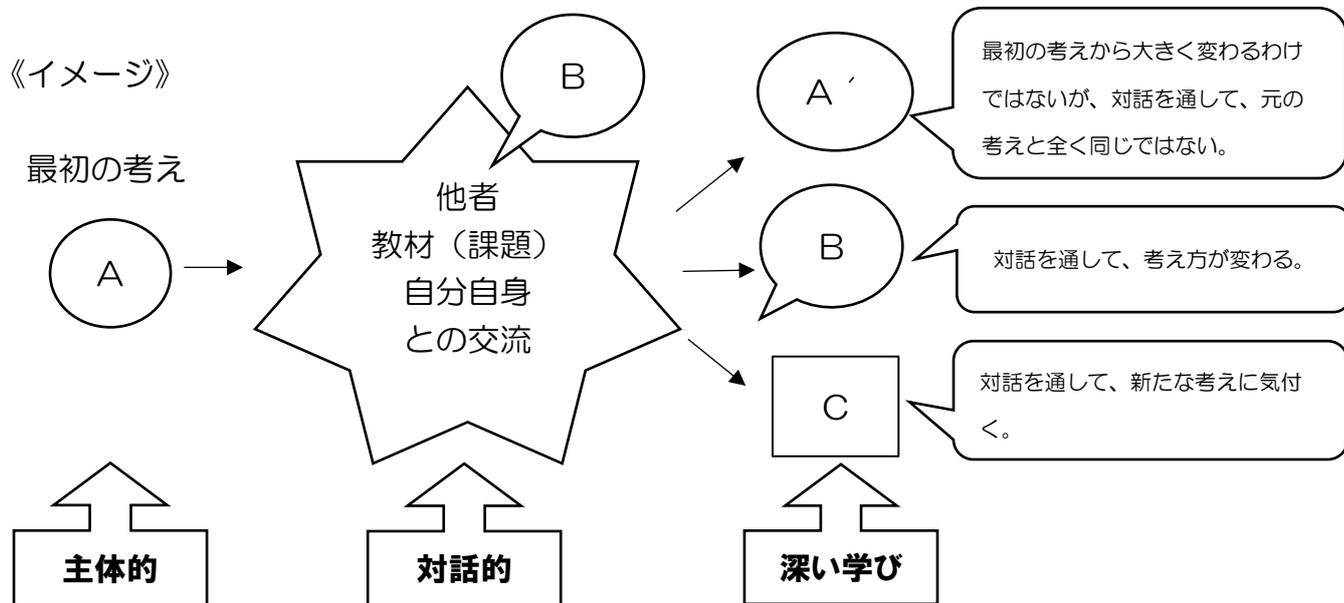
この視点にそって研究を進めてきた結果については、第1回の研究全体会で触れたいと思います。この2つの視点から、「深い学び」をする児童の姿も見えてきました。

- 既習事項を用いて、新たな課題に取り組もうとする
- 学んだことを基に、新たな課題・疑問を見つけ解決しようとする
- わかったことを、友だちに見てほしい、聞いてほしい（いきいきと説明）
- 友だちのやり方を見て、自分に取り入れる

「主体的」、「対話的」、「深い学び」の関係性については、裏面の図のように私自身は考えています。私は深い学びは「**2日目のカレー**」ではないかと思っています。でも、これが正解

裏面に続きます

かどうかはわかりません。新しくいらっしゃった先生方、ぜひみなさんのお考えをお聞かせください。そうやって、南部小版の「納得解」を作っていきましょう。



「主体的」は、自分の考えがまだ持ててないと自覚できれば、それも1つの考えと捉えることができると思います。ただし、最初から考えないのとは違いますよ。「深い学び」については、対話を通して、「D 逆にわからなくなった」なんてこともあるかもしれません。いずれにしても、この変容を児童がいかに自覚できるかが大切になってきます。そして、それが「評価」ではないでしょうか？これまでは、教師が子ども達の様子を見とるだけの評価が多かった気がします。でも、それだけでは足りないのだと思います。子ども達自身が自分事として主体的に学ぶためには、自分の「変容」を自分で「評価(自覚)」する必要があります。そして、その場が「ふり返り」です。